

助け合うってすばらしい

震災後、「普通の生活を送る」ということは、いかに有難いことなのかを強く感じる事ができた。ライフラインや通信設備などの復興には多くの人に関わり、たくさんの支援物資が届き、被災した人たちも周囲と助け合いながら生活できるようになった。そんな体験をした私たちは、更に助け合いながら復興に取り組んでいる。

1 震災当時の思い出(市内中学生の声・記述より)

- 電話やメールができなくて、友達や親戚のことがすごく心配で眠れなかった。安否が分かるまでの時間が長く感じた。
- 真っ暗になり、おばあちゃんがすごく怖がって、自分も怖くなった。そうしたら、家族から笑顔が消えていった。だから、電気がついたときはほっとした。
- 食べ物があつという間になくなった。店には品物がなくて、買いに行けなかった。小学生の弟の口の周りにポツポツができて痛がっていたけど、その程度で医者に行ける状態じゃなかったのが、つらかった。
- お風呂に何日も入れなくて体がかゆかった。トイレに行く回数を減らすために、水分も我慢した。だから、水道が復旧した時は、とてもうれしかった。
- 電気・ガス・水道関係、電話会社、自衛隊員など、他県から多くの人々が復旧のために働きに来ていて、いろんな県のナンバーが町中にあふれていた。
- 避難所や給水所でみんな親しくしてくれてうれしかった。助け合いも普通にあって、近所の人とより親しくなれたと思う。
- うちの父はガス会社に勤めているけど、朝から晩までずっと復旧のためにがんばっていた。すごいと思った。肩をもんであげたら、喜んでくれた。



全国から駆けつけたガス復旧隊

2 児童生徒による故郷復興プロジェクトの取り組み

仙台市内の学校では、震災後の復興を目指し、「復興へ！学校の力結集！」をスローガンに掲げ、児童生徒による故郷復興プロジェクトを実施してきた。震災後間もない2011（平成23）年5月11日には、第1弾「復興へ！力を合わせて」として、市内の学校が一斉に学区内清掃やあいさつ運動を実施した。児童生徒が震災復興に向けて環境整備活動等を行い、愛校心や郷土愛を深めながら、共に助け合おうとする気持ちを高めるために実施した。

第2弾は「今、私たちにできること」として、市内学校の全児童生徒が、震災からの復興に向けて自分たちができることについて話し合った。小中学校の代表児童生徒が4つの会場に分かれてサミット（意見交換会）を実施した。

その後、サミットにおいて出された意見は、第3弾以降の取り組みや平成24年度以降の取り組みに反映され、応援旗を作成したり、全国からの支援のお礼のためにポスターを制作したりしている。また、平成25年度に発表された復興ソング（中学校バージョン『仲間とともに』）は、復興に向けて一体となって取り組んでいくために、「自分たちで復興ソングを作りたい」という意見から制作されたものであった。

現在では、更に地域に元気を与え復興への思いを高めるために、保護者・地域・関係機関等と連携し、学校と地域が一体となった独自の取り組みを実施しているところが増えている。



商店街に飾られた各校制作の復興への応援旗



故郷復興サミット（太白区）に集まった各校代表のメンバー



復興の祈りを込めた折り鶴の吹き流し。制作した各校の願いとともに、仙台七夕まつりに飾られる。

「小中学生に今、何ができるかを考える」ことを議題にした当日の故郷復興サミットでは、学校の意見と自分の主張を参加者の方々に伝えることができました。中でも「全ての学校で同じ瞬間に全員で合唱をする」という意見には、ほとんどの方に賛同していただきました。この意見のおかげで、雰囲気もほぐれ、活発な話し合いができました。

私は協力がとても重要であるということ学びました。被災時など、高い壁に直面した時に役立つのは協力する力です。「協」という字には十の力が3つ、力がたくさん集まっています。たくさんの力が集まれば、どんな問題も解決できます。これからの仲間と共に、人生を協力しつつ歩んでいきたいです。

（サミットに参加した生徒の感想から）